


年報 2025

 敬愛短期大学
自己点検・評価委員会

基準	基準 I 建学の精神と教育の効果
テーマ	A 建学の精神

関連委員会	教務委員会
関連部署 (事務部門)	修学支援室
関連データ(規程)	建学の精神、学則

中期計画2029(MASTER PLAN)
02-I-1. 建学の精神「敬天愛人」による人格の涵養を基盤とした自校教育を推進し、学生が自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育を行う。

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

(1) 授業を通してディプロマポリシーの一つである「保育者としての使命感」を獲得し、「敬天愛人」の理念を理解・体得する。(教務)

2 具体的計画(PLAN)

(1) 初年次教育である敬愛スタートアップゼミ内で「保育者としての使命感」を踏まえた「敬天愛人」の理念の実践に関する授業を実施する(教務)

3 取組状況(DO)

(1) 敬愛スタートアップゼミ第3回(4月30日)に「文章表現の基礎＜敬天愛人をもとに考える」で授業を実施した。(教務)

4 点検・評価(CHECK)

(1) 敬愛スタートアップゼミ第3回(4月30日)に「文章表現の基礎＜敬天愛人をもとに考える」で授業を実施できた。(教務)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

(1) キャリアデザイン I・IIなどの授業でも「敬天愛人」に関連した授業を実施する。(教務)

基準	基準 I 建学の精神と教育の効果
テーマ	B 教育の効果

関連委員会	教務委員会、学生委員会
関連部署 (事務部門)	修学支援室、学生支援室
関連データ(規程)	建学の精神、学則、3ポリシー

中期計画2029(MASTER PLAN)
02-I-1. 建学の精神「敬天愛人」による人格の涵養を基盤とした自校教育を推進し、学生が自らの可能性を最大限に伸ばすことができる教育を行う。

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

(1) クラス・ゼミ単位での行事参加や地域貢献等での協働を通して信頼や絆を深め、「敬天愛人」を継承する保育者としての基礎作りを行う。(学生・教務)

(2) 行事参加等、自校教育に関する科目を新設し単位化する、あるいは行事参加を「敬愛スタートアップゼミ」や「敬愛ブラッシュアップゼミ」の出席として取り扱う。(学生・教務)

2 具体的計画(PLAN)

(1) ①リーダー研修を通し、各クラス・系のリーダーが活動企画案をたてられるよう支援する。更にクラス・係は、学生が自主的に学生自治活動に参加できるよう話し合いを重ね、役割分担の責任や参加の意義を伝えていく。(学生)

(1) ②新入生オリエンテーションや敬愛スタートアップゼミ内での授業を通して、「敬天愛人」の理念を踏まえた保育者としてのあり方、使命について理解を深める(教務)

(2) ①単位化について検討するが、行事参加は学生が主体的に行うことに意義があるため、早期の学生間の連絡や準備をより徹底していく。(学生)

(2) ②自校教育に関する科目を検討するとともに、敬愛スタートアップゼミ内で「敬天愛人」の理念の実践に関する授業を実施する(教務)

3 取組状況(DO)

(1) ①7月に第1回リーダーズ研修会を実施した(32名参加)。講座内容は①「行事の計画の立て方について」②「話し合いの仕方について」③「熱中症対策や緊急対応」の講習であった。各リーダーは、クラスや委員会・係、部活動に於いて話し合いを進め、役割分担の責任や行事参加の意識が高められた。11月、1月にもリーダーズ研修を実施する予定。(学生)

(1) ②4月3日の新入生オリエンテーションの際、「敬天愛人講座「敬天愛人」～本学の教育理念について」と題して講演を行い、理解を深めた。また敬愛スタートアップゼミ第3回(4月30日)に「文章表現の基礎＜敬天愛人をもとに考える＞」で授業を実施した。(教務)

(2) ①学生自治活動と授業を明確に分けるため、単位化はしない。単位縛りをしなくても主体的に出席率が改善された(ダンス大会90.5%)。敬愛フェスティバルは、全員参加の予定でクラス企画が進められた(1日目 1年生92% 2年生84% 2日目 1年生90% 2年生95%)。*1日目は公務員採用2次と重なる。(学生)

(2) ②敬愛スタートアップゼミ第3回(4月30日)に「文章表現の基礎＜敬天愛人をもとに考える＞」で授業を実施したが、自校教育に関する科目の検討はまだできていない。(教務)

4 点検・評価(CHECK)

(1)①リーダーズ研修を3回(7月、11月、1月)実施することにより、各行事を滞りなく開催できた。また、次のリーダーに引き継ぐことができている。(学生)

(1)②4月3日の新入生オリエンテーションの際、「敬天愛人講座「敬天愛人」～本学の教育理念について」と題して講演を行い、理解を深めた。また敬愛スタートアップゼミ第3回(4月30日)に「文章表現の基礎＜敬天愛人をもとに考える」で授業を実施できた。(教務)

(2)①学生の主体的な活動意義を高めるため、単位化はしない。(学生)

(2)②自校教育に関する科目について検討したが、現時点ではカリキュラム編成の観点から、科目の設置は難しい状況である。敬愛スタートアップゼミ内で「敬天愛人」の理念の実践に関する授業は実施できた(教務)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

(1)①引き継いだリーダーは、1月のリーダー研修会で作成した、次年度年間計画を基に各部署で、運営を行うよう支援する。(学生)

(1)②次年度も敬愛スタートアップゼミ、キャリアデザインの授業内でも「敬天愛人」の理念の踏まえた保育者のあり方、使命についての理解を深める。(教務)

(2)①各行事の活動意義を理解し、モチベーションが高まるような動画等による提示を心掛ける。(学生)

(2)②自校教育に関する科目についての設置は見送り、「敬天愛人」の理念の実践に関する科目を増やしていく。(教務)

以上

基準	基準 I 建学の精神と教育の効果
テーマ	C 社会貢献

関連委員会	教務委員会、学生委員会、総合子ども学研究所、就職委員会、企画運営委員会
関連部署 (事務部門)	大学運営室、地域連携センター、修学支援室、学生支援室、キャリアセンター
関連データ(規程)	建学の精神、学則

中期計画2029(MASTER PLAN)	
04-Ⅱ-2. 社会実装(実用化)を通じた研究成果の地域還元を目指す。	
05-Ⅰ-1. 本学の学生が地方公共団体、産業界、他大学等との地域における多様な学習機会を正課内外に拡大・進展させることで、地域連携を推進する能力を備えた人材を育成する。	
05-Ⅱ-2. 地域連携推進による学外関係者との交流を図る。	

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

- (1) 子育て支援に関する調査を生かした地域に対する子育て支援活動を、定期的実施する。(研究所)
- (2) 「敬愛ブラッシュアップゼミ」の学びを生かし、地域に還元できる活動を各ゼミで計画し実施する。(研究所)
- (3) 「敬愛ブラッシュアップゼミ」の子育て支援事業参加実績を参考とし、「敬愛スタートアップゼミ」においても子育て支援計画を立案する。(研究所・教務)
- (4) 年1回発行のニュースレター以外に、子育て中の保護者向けの情報発信をSNSや紙媒体で行う。(研究所)
- (5) 「敬愛ブラッシュアップゼミ」等の授業内での学びを、千葉市公立保育所で発表し交流を図る。(研究所)
- (6) 敬愛フェスティバルに千葉市の幼稚園児、小学生等を招待する。(学生)
- (7) 千葉市公立保育士志望学生のインターンシップ制度を整備する。(就職)
- (8) 絵本コンシェルジュが学内外で絵本の読み聞かせを行う。(学生)
- (9) 地域連携センターとの連携や「ちば産学官連携プラットフォーム」への参画による学外関係者との交流を継続する。(地域連携センター)
- (10) 稲毛地区の子育て支援センターの見学、学外者の本学の子育て支援事業への招待等により交流を図る。(研究所)
- (11) 教員の専門性を生かした講座やワークショップ、コンサルタント等で地域に貢献する。(地域連携センター・企画)
- (12) 地域で働く卒業生の協力を仰ぎ、絵本に関するワークショップを行う。(研究所)

2 具体的計画(PLAN)

- (1) (2) 後期開催されるブラッシュアップゼミの各ゼミ学生と共同で、10月下旬より12月まで水曜日11:00~12:00に子育て支援活動を実施する。(研究所)
- (3) 1年生の参加を考慮し、2026年度に向けて「敬愛スタートアップゼミ」と共同でできる子育て支援計画を立案する。(研究所・教務)
- (4) 子育て中の保護者向けにお勧め絵本やおもちゃの紹介をInstagramやちらしで定期的に行う。(研究所)
- (5) 「敬愛ブラッシュアップゼミ」の授業内で作成した玩具などを千葉市公立保育所で子どもたちと共有する。(研究所)
- (6) 地域とともにある短大の意味を学生に伝え、敬愛フェスティバルに地域の保育所、小学生等を招待する。(学生)
- (7) 4月にキャリアセンターとキャリアデザイン科目担当者が連携し、千葉市の担当者を招きガイダンスを実施し、公募申し込みのサポートを実施するとともに、インターンシップ参加者の取りまとめを行う。(就職)
- (8) 絵本コンシェルジュが学内活動(えほんのもりでの読み聞かせ活動)、学外活動(千葉市公立保育所での読み聞かせ活動)をする。(学生)
- (9) 「ちば産学官連携プラットフォーム」等を通じた各事業への参画により、地域連携・社会貢献活動への参加を推進する。(地域連携センター)
- (10) 7月までに稲毛地区の子育て支援センターの見学を行い、利用者の様子を伺ったり交流の可能性を検討する。(研究所)
- (11) 千葉市内の幼稚園・保育所等が抱える課題解決に資する助言活動・研修・講義の受託、また千葉市と連携した保育者向け合同研修などを実施し、千葉市との連携協定締結に繋げる。(地域連携センター・企画)
- (12) 千葉県内で働く卒業生を集めて7月26日(土)に絵本の勉強会を開催する(研究所)

3 取組状況(DO)

- (1) (2) 後期開催されるブラッシュアップゼミの各ゼミ学生と共同で、10月下旬より12月まで水曜日11:00~12:00に子育て支援活動を実施する。ちらしを作成し千葉市内の子育て支援施設に配布した。(研究所)
- (3) 1年生の参加を考慮し、2026年度に向けて「敬愛スタートアップゼミ」と共同でできる子育て支援計画を立案するための打合せをしている。(研究所・教務)
- (4) 子育て中の保護者向けにお勧め絵本やおもちゃの紹介をInstagramやちらしで定期的に行うためにゼミ生と資料作成を実施する。(研究所)
- (5) 9月以降「敬愛ブラッシュアップゼミ」(吉村ゼミ)の授業内で作成した玩具などを千葉市公立保育所で子どもたちと共有する。(研究所)
- (6) 稲毛区役所との連携、地域新聞へ折り込みチラシ、近隣幼稚園・保育所・小学校にチラシ、ポスター配布を行った(チラシ:私立保育園5箇×10、ポスター:敬愛大学3、国際理工カレッジ6、学園高校5、千葉敬愛5、轟町小2、小中台小2、南小中台小2、私立保育園・幼稚園4)。別にポスティング2527枚を行った。(学生)
- (7) 千葉市公務員保育士採用試験の説明会を4月25日のキャリアデザイン科目に千葉市の担当者を招いて実施した。5月に千葉市より市主催の保育所インターンシップの案内があり、キャリアセンターよりKCNを通して、千葉市の申し込みサイトの案内を行い、希望者および実施園、期間などの把握、エントリーシートの添削指導を行った。結果、1年生13名、2年生1名(計14名)が8月期間中に参加した。(就職)
- (8) 前期に2年生絵本コンシェルジュが千葉市公立保育所5カ所(幸認定こども園、西小仲台、幸第一、新宿、あやめ台第二)で読み聞かせを行った。後期には、1年生絵本コンシェルジュによる近隣私立園3カ所を訪問する予定。学内えほんのもりでの読み聞かせは5回実施する予定である。(学生)
- (9) 「ちば産学官連携プラットフォーム」を通じた学外者との交流は、上半期は教職員を中心に実施された。また地域連携センターを通じ、本学学生の幼保系ボランティア活動に積極的に参加すると共に、保育基礎コースを設置する県立高校との連携事業も実施された。(地域連携センター)
- (10) 9月に稲毛地区の子育て支援センターの見学を行い、利用者の様子を伺ったり本学の子育て支援活動のちらしを持参する等交流の可能性を検討する。(研究所)
- (11) 千葉市こども未来局との協議を経て、教員を市立保育所等での研修会に派遣しただけでなく、学生も未就学児との交流事業に参加した。また本学を会場とした「子育て支援ワークショップ」(10月から開始)の内容を検討した。これらの成果を踏まえ、千葉市との連携協定締結に繋げる協議が進んでいる。(地域連携センター・企画)
- (12) 千葉県内で働く卒業生を集めて7月26日(土)に絵本の勉強会を開催した。(研究所)

4 点検・評価(CHECK)

- (1) (2) 後期開催されたブラッシュアップゼミの各ゼミ学生と共同で、10月下旬より12月まで水曜日11:00~12:00に子育て支援活動を実施した。ちらしを作成し千葉市内の子育て支援施設に配布した。(研究所)
 - (3) 1年生の参加を考慮し、2026年度に向けて「敬愛スタートアップゼミ」と共同でできる子育て支援計画を立案するための打合せをした。具体的な計画を立案できていないが「敬愛スタートアップゼミ」で行うのは時間的に難しいという意見が出ている(研究所・教務)
 - (4) 子育て中の保護者向けに子育て支援ワークショップにおいてゼミごとにお勧め絵本やおもちゃの紹介を作成して保護者に配布した。ただし、定期的には行えずゼミごとの資料配付となった。(研究所)
 - (5) 「敬愛ブラッシュアップゼミ」(吉村ゼミ)の授業内で作成した玩具などを千葉市公立保育所で子どもたちと共有した。(研究所)
 - (6) 学生の取り組みの一つ一つが千葉市との相互連携につながった。今後もフェスティバルや絵本コンシェルジュの派遣等に力を入れていく。(学生)
 - (7) 活動方針・目標にある制度の整備というところまではいかなかったが、千葉市主催のインターンシップの案内、エントリーシートの添削指導や、傷害保険の手続きについて案内し、14名が参加することができた。(就職)
 - (8) 絵本コンシェルジュの読み聞かせ活動は、学内活動5回、千葉市公立保育所で4件、私立幼稚園等で4件、訪問読み聞かせを実施した。(学生)
 - (9) 「ちば産学官連携プラットフォーム」を通じた学外者との交流は、短大連携WG及びこども子育て連携支援WGの取組で、学生・教職員を対象に実施された。また地域連携センターを通じ、本学学生の幼保系ボランティア活動に積極的に参加すると共に、保育基礎コース設置校との連携を推進した。(地域連携センター)
 - (10) 9月に稲毛地区の子育て支援センターの見学を行い、利用者の様子を伺ったり本学の子育て支援活動のちらしを持参した結果、ちらし配布の協力があつた。(研究所)
 - (11) 教員3名を市立保育所等での研修会に派遣しただけでなく、学生も千葉市内の公立保育所を訪問して未就学児との交流事業に参加した。また本学を会場とした「子育て支援ワークショップ」が10月~12月に全9回実施され、多くの子どもたちとその家族が参加した。(地域連携センター・企画)
- これらの成果を踏まえ、12月に千葉市と本学との相互連携協定が締結された。(地域連携センター・企画)
- (12) 千葉県内で働く卒業生を集めて7月26日(土)に絵本の勉強会を開催した。(研究所)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1) (2) 来年度も引き続きブラッシュアップゼミの各ゼミ学生と共同で、10月下旬より12月まで水曜日11:00~12:00に子育て支援活動を実施する。現在はゼミに任せられている。教員の指導負担、地域との継続的な連携体制の構築も課題であり、全学的な支援や情報共有の仕組みを構築する必要がある。また参加者多数の場合の会場をどうするかについても今後の課題である。(研究所)
- (3) 来年度も引き続き「敬愛スタートアップゼミ」において、「敬愛ブラッシュアップゼミ」と共同でできる子育て支援計画を立案するための打合せを実施していく。「敬愛スタートアップゼミ」における子育て支援事業への参加については、教務との共通理解ができていないことが課題である。(研究所・教務)
- (4) 今年度は2つのゼミの発信にとどまった。保護者の関心や状況が多様であるため、専門性と分かりやすさを両立した提供情報の内容整理が求められる。加えて、継続的な発信に伴う担当者の確保や業務負担もあるため、効率よくできる体制作りが課題である。(研究所)
- (5) 現在は各ゼミに任されている。発表可能なゼミばかりではないので、引き続きゼミに任せた千葉市との交流で問題ないが、全体をまとめる体制は必要かと考えられる。(研究所)
- (6) 千葉市と敬愛短期大学の相互連携協定の動画を作成し、学生へ周知していく。(学生)
- (7) 千葉市主催の保育職インターンシップへの参加を促す。(就職)
- (8) クラスを超えての活動であるため、練習の確保が難しかったため、3月に絵本コンシェルジュの研修を行い、早期に活動計画と練習日程・発表日程を決める。(学生)
- (9) 「ちば産学官連携プラットフォーム」等を通じた各事業への参画により、地域連携・社会貢献活動への参加を推進する。(地域連携センター)
- (10) 特に課題はなし。引き続き稲毛地区の子育て支援センターと連携してちらし配布の依頼、その他の協力を相互に行う。(研究所)
- (11) 千葉市内の幼稚園・保育所等が抱える課題解決に資する助言活動・研修・講義の受託、また千葉市との相互連携協定を基礎とした事業の充実を図る。(地域連携センター・企画)
- (12) 専門士資格取得者の地域への実践的な展開方法が明確でない点が課題である。(研究所)

以上

基準	基準 I 建学の精神と教育の効果
テーマ	D 内部質保証

関連委員会	教務委員会、企画運営委員会
関連部署 (事務部門)	修学支援室、大学運営室、IR・広報室
関連データ(規程)	建学の精神、学則

中期計画2029(MASTER PLAN)
02-Ⅱ-1. 学生の個別の学習成果の可視化を基軸に据えた内部質保証の実質化に取り組む。 02-Ⅱ-3. 学長の迅速な意思決定を可能とする学長補佐体制を強化する。

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

- (1) アセスメントポリシーの策定、学習成果アンケートの項目や学習成果と授業科目との関連を精査する。(教務)
(2) FD研修会→(教務委員会)→企画運営委員会→教授会という実質的な課題検討の場の確保と機関決定の流れを構築する。(企画)

2 具体的計画(PLAN)

- (1) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つの方針に基づき、学生の学習状況および学習成果を把握・検証する方法を定め、アセスメントポリシーを公表する。(教務)
- (2) ①大学運営上の重要課題に関する情報を整理した議題資料を大学運営室が事前に作成し、効率的な意思決定を支援する。(運営室)
(2) ②議事録は大学運営室が作成し、決定事項・アクション項目については、フォローアップ担当を明示し、次回以降の進捗確認を行う。(運営室)
(2) ③教授会での審議を希望する重要案件については、予め企画運営委員会に周知し大学としての方向性の検討を行っておくために、企画運営委員会開催通知時に各委員長等が副学長及び大学運営室長に申し出る。将来構想については、企画運営委員会で方向性を検討の上、教授会に諮る。(運営室)

3 取組状況(DO)

- (1) 三つの方針に基づく、学生の学習状況および学習成果を把握・検証する方法のうち、ディプロマポリシーについては、3つのポイントをもとに科目を分類し、IR・広報室の工藤室長に依頼してGPAの平均をもとに個々の学生の「学習到達レポート」を作成した。残る二つのポリシーについては今後検討する。アセスメントポリシーは作成されたが、公表までに至っていない。今後、公表に向け教務委員会、企画運営委員会で検討したうえで大学HPに公表していく予定である。(教務)
- (2) ①大学運営上の重要課題に関する情報を整理した議題及び資料を大学運営室が事前に作成し、副学長と綿密な打ち合わせを行うことで、企画運営委員会において、効率的な意思決定の支援を行っている。(運営室)
(2) ②議事録は大学運営室が作成し、決定事項およびアクション項目については、関係各室へ適切に伝達のうえ、担当部署による作業を進めてもらっている。必要に応じて、企画運営委員会において進捗状況の報告・確認を行い、全学的な課題共有とフォローアップを実施している。(運営室)
(2) ③教授会での審議を希望する重要案件については、予め企画運営委員会に周知し大学としての方向性の検討を行っておくために、企画運営委員会開催通知時に各委員長等が副学長及び大学運営室長に申し出るよう意思決定の流れの構築を行っている。将来構想については、現在着手していない。(運営室)

4 点検・評価(CHECK)

(1) アセスメントポリシーを本学HPに公表できた。学生の学習状況および学習成果を把握・検証する方法のうち、GPAの平均をもとに個々の学生の「学習到達レポート」を作成できた。(教務)

(2) ①大学運営上の重要課題について、議題および資料を事前に整理し、副学長との打合せを行う体制は定着している。これにより、企画運営委員会における審議が円滑に進み、意思決定の迅速化に一定の効果が見られる。(運営室)

(2) ②議事録の作成および決定事項の関係部署への伝達体制は確立されており、必要に応じて企画運営委員会で進捗確認を行うなど、フォローアップの仕組みは概ね機能している。全学的課題の共有と対応の流れは整備されている。(運営室)

(2) ③教授会審議案件について、事前に企画運営委員会で方向性を検討する意思決定プロセスの整理を行ったことで、機関決定の流れは明確化されつつある。一方、将来構想に関する具体的な検討は未着手であり、今後の課題である。(運営室)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

(1) 「学習到達レポート」が学生の学習成果を適切に反映しているかどうかをさらに検証していく。(教務)

(2) ①企画運営委員会における議題について、優先度や検討段階を整理して提示する運用を行い、戦略的課題について早期段階から協議できる体制を強化する。(運営室)

(2) ②決定事項およびアクション項目について、大学運営室が定期的に進捗状況を確認し、未達事項がある場合には関係部署と協議のうえ対応方針を整理するなど、内部質保証の実効性を高める。(運営室)

(2) ③将来構想の検討に向け、短大の現状課題(入学定員、教育課程の特色化、地域連携の在り方等)を整理し、企画運営委員会において論点整理および方向性の検討を行う。検討内容については必要に応じて教授会へ報告・共有し、企画運営委員会を中心とした意思決定プロセスを明確化する。(運営室)

以上

基準	基準Ⅱ 教育課程と学生支援
テーマ	A 教育課程

関連委員会	教務委員会、総合子ども学研究所、学生委員会
関連部署 (事務部門)	修学支援室、学生支援室、大学運営室、IR・広報室
関連データ(規程)	建学の精神、学則、カリキュラムポリシー、デュプロマポリシー

中期計画2029(MASTER PLAN)	
02-Ⅱ-2. 主体的学びに対応した学習支援を充実させる。	
02-Ⅲ-1. 入学後の学びが順調に進むことを意識した入学前教育と初年次教育の充実を図る。	
02-Ⅲ-2. 「敬愛スタートアップゼミ」(初年次教育)、「敬愛ブラッシュアップゼミ」(専門、応用教育)として展開しているゼミ教育の高度化を図る。	
02-Ⅲ-3. 本学における教育研究活動を通して、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する人材を育成する。	

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

- (1) 本学のカリキュラムポリシーの一つである「アクティブラーニングや実践的活動を多く取り入れる」に継続して取り組む。**(教務)**
- (2) メディアセンターのレファレンス機能を強化する**(教務)**
- (3) 入学後の学びが順調に進むことを意識した入学前教育と初年次教育の充実を図る。**(教務)**
- (4) ピアノスキルチェックや絵本ノート課題の提示、キャリア教育に繋がる理想の保育者像についてのワークショップ等の内容を改善する。**(教務)**
- (5) 「敬愛スタートアップゼミ」において、修学の基礎(協同的な学びの方法、個人発表、協同体験及び発表)やコミュニケーションスキルの修得を目指す。**(教務)**
- (6) 「敬愛ブラッシュアップゼミ」で獲得した学習成果を地域や保育・福祉の現場等に還元する仕組みを検討し、実践的な取組を行う。**(教務)**
- (7) 「認定絵本士」資格を取得して卒業した学生が絵本専門士受験対策講座を受講して「絵本専門士」資格を取得し、勤務している地域や本学近隣の地域に絵本の学びや良さを広める。**(教務・研究所)**
- (8) 絵本に関する活動を通して「敬天愛人」の理念を体感する機会を設ける。**(教務・学生・研究所)**

2 具体的計画(PLAN)

- (1) シラバス作成の際に、授業内でアクティブ・ラーニングを積極的に実施してもらうよう、各回に「AL手法」を明示することとしている。今年度も引き続き実施し、授業での教育活動の際に積極的に取り組むよう呼びかける。**(教務)**
- (2) ①教員に対して授業でのメディアセンターの積極的な活用を促進し、学生にはガイダンス等でレファレンス機能の周知と活用をアナウンスする。**(教務)**
- (2) ②学生向けの図書館レファレンスサービス利用マニュアルを作成し、課題や実習への能動的な情報探索を支援する。**(メディア)**
- (3) 入学前教育と初年次教育の効果について、学習成果アンケート、授業評価等で測定し、次年度の各教育に反映する。**(教務)**
- (4) 各教員からの振り返り、学生による学習成果アンケート、授業評価等を通して今年度の学習活動成果を振り返り、改善点を把握し、各内容に反映する。**(教務)**
- (5) 昨年度実施した授業内容を踏まえ、必要に応じて授業内容の工夫、改善を進める。**(教務)**
- (6) 獲得した学習成果を今年度実施する総合子ども学研究所による子育て支援活動や千葉県との地域連携活動に還元する。**(教務)**
- (7) 「認定絵本士」資格を取得して卒業した卒業生対象の「絵本専門士受験対策講座」を7月26日(土)に開催し、資格取得を支援するとともに、卒業生対象の絵本講座も開催し、資格取得者の地域での活動促進の働きかけを行う。**(研究所・教務)**
- (8) ①絵本コンシェルジュが地域のために行うボランティアや社会参画の機会を通し、敬天愛人の精神の涵養を図る。また、学生が感じる「敬天愛人」を伝える絵本を選定し紹介する。**(学生)**
- (8) ②「敬天愛人」の精神が含まれる絵本を探し、子育て支援事業時に読み聞かせなどをおして学生が体感する。**(研究所・教務)**

3 取組状況(DO)

- (1) シラバス作成は1月となるので、その際に呼びかける。(教務)
- (2) ①現時点では活用促進のアナウンスが十分できていないが、講師説明会、学生向けのガイダンスで周知していく。(教務)
- (2) ②主体的な情報探索を支援するため、図書館レファレンスサービスの利用案内を後期ガイダンス資料として配信し、資料の探し方や相談方法を示した。(メディア)
- (3) 今後、IRが作成した学習到達レポートをもとに効果を検証し、反映する方法を検討する。(教務)
- (4) 前期の学習成果アンケートに対する改善報告は実施した。後期も同様に実施する。(教務)
- (5) 学習成果アンケートに基づく改善報告をもとに、授業内容の工夫、改善を求めた。(教務)
- (6) 子育て支援体験については、敬愛ブラッシュアップゼミ内の活動で、千葉市との地域連携活動については「劇あそびプロジェクト」において還元した。(教務)
- (7) 「認定絵本士」資格を取得して卒業した卒業生対象の「絵本専門士受験対策講座」を7月26日(土)に開催し、資格取得を支援するとともに、卒業生対象の絵本講座も開催した。可能であれば敬愛フェスティバルにおいて資格取得者の地域での活動促進の働きかけの機会を創出する。(研究所・教務)
- (8) ①絵本コンシェルジュ・図書係は、愛情や優しさがテーマとなった選書をし学内外で読み聞かせ活動を実施した。また敬愛フェスティバルに於いて「絵本コンシェルジュ×敬天愛人」として絵本を選定し掲示ブースを設け紹介した。(学生)
- (8) ②「敬天愛人」の精神が含まれる絵本を探し、10月から始まる子育て支援事業時に読み聞かせなどをおして学生が体感する。(研究所・教務)

4 点検・評価(CHECK)

- (1) シラバス作成依頼の際、授業内でアクティブ・ラーニングを積極的に実施するため、各回に「AL手法」の入力を求めて入力を達成できた。(教務)
- (2) ①講師説明会、学生向けのガイダンスで活用促進について周知した。(教務)
- (2) ②図書館レファレンスサービスの利用案内については、後期ガイダンス資料として配信することで一定の周知を図ることができた。一方で、1階「えほんのもり」に比べ、2階図書館はさらなる活用促進の余地がある。(メディア)
- (3) 学習到達レポートの効果について、FD研修会において報告できたが、入学前教育と初年次教育の効果までは検証に至らなかった。(教務)
- (4) 授業担当者に対して、学習成果アンケートに基づく改善報告作成を求め、次年度の授業に反映するように周知した。(教務)
- (5) 「敬愛スタートアップゼミ」において修学の基礎、コミュニケーションスキルの修得をめざしたが、実習指導、実習において修得が不十分なものがあり、授業内容の改善の必要がある。(教務)
- (6) 子育て支援体験については、敬愛ブラッシュアップゼミ内の活動で、千葉市との地域連携活動については「劇あそびプロジェクト」において還元できた。(教務)
- (7) 「認定絵本士」資格を取得して卒業した卒業生対象の「絵本専門士受験対策講座」を7月26日(土)に開催し、資格取得を支援するとともに、卒業生対象の絵本講座も開催できた。敬愛フェスティバルにおいて資格取得者の地域での活動促進の働きかけの機会がスケジュールの都合上、創出できなかった。(研究所・教務)
- (8) ①敬愛フェスティバルに於いて「絵本コンシェルジュ×敬天愛人」として絵本を選定し掲示ブースを設け紹介した。(学生)
- (8) ②教務・学生・研究所の連携不足により、絵本を用いた「敬天愛人」の理念を体感するための具体的方策が不明確であることが課題である。(教務・研究所)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1) 来年度もシラバス作成の際に、授業内でアクティブ・ラーニングを積極的に実施してもらおう、各回に「AL手法」を明示させる。(教務)
- (2) ①来年度も講師説明会、学生向けのガイダンスで活用促進のアナウンスを実施する。(教務)
- (2) ②2階図書館の活用促進に向け、教員の協力を得ながら授業等での利用につながる方法を検討する。(メディア)
- (3) 学習到達レポートの効果について、IRと連携して入学前教育と初年次教育の効果の検証方法を構築していく。(教務)
- (4) 来年度も各教員からの振り返り、学生による学習成果アンケート、授業評価等を通して今年度の学習活動成果を振り返り、改善点を把握し、各内容に反映する(教務)
- (5) 「敬愛スタートアップゼミ」において、今年度十分に修得させることができなかった修学の基礎、コミュニケーションスキルを確実に修得できるよう授業内容を改善する(教務)
- (6) 子育て支援体験については、引き続き敬愛ブラッシュアップゼミ内の活動で実施し、千葉市との地域連携活動については「劇あそびプロジェクト」において実施をめざすが、今年度の課題を反映して改善していく。(教務)
- (7) 卒業後における継続的な学修への動機づけや支援体制、専門士資格の意義の明確化、地域への実践的な展開方法や成果を可視化する仕組みが十分に整っていない点が課題である。(研究所・教務)
- (8) ①絵本の内容だけにとらわれず、子どもたちのために行動するという意識と使命を育てることにより、敬天愛人の理念に繋げていく。(学生)
- (8) ②教務・学生・研究所の連携不足により、絵本を用いた「敬天愛人」の理念を体感するための具体的方策が不明確であることから、実施可能かどうかも含めて3者で議論していく。(教務・研究所)

基準	基準Ⅱ 教育課程と学生支援
テーマ	B 学習成果

関連委員会	教務委員会
関連部署 (事務部門)	修学支援室、IR・広報室
関連データ(規程)	建学の精神、学則、カリキュラムポリシー

中期計画2029(MASTER PLAN)
02-Ⅱ-1. 学生の個別の学習成果の可視化を基軸に据えた内部質保証の実質化に取り組む。

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

(1)学習到達レポートの運用により、学生一人ひとりのディプロマポリシー到達度を可視化する。(教務)

2 具体的計画(PLAN)

(1)IR・広報室より算出されたディプロマポリシーの三つの学習成果の評価をもとに、各学生の学習到達レポートを作成する。(教務)

3 取組状況(DO)

(1)IR・広報室より、前期の評価をもとに学習到達レポートを作成された。(教務)

4 点検・評価(CHECK)

(1)2025年10月以降、1年生の「敬愛スタートアップゼミ」、2年生の「敬愛ブラッシュアップゼミ」の学生への個人面談の際に活用を開始した。面談後、教員にアンケートを行い、課題の洗い出しを行った。(教務)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

(1)ディプロマポリシーとの関連を十分に説明することが難しいとの意見があったことから、ディプロマポリシーと各科目の対応関係を示した学習到達レポートとともに各教員に配布し、教員の理解を深める。(教務)

(2)授業の初回にシラバスを用いてガイダンスする時に、学習到達レポートについて触れながら説明することで、学生の理解を深める。(教務)

以上

基準	基準Ⅱ 教育課程と学生支援
テーマ	C 入学者選抜

関連委員会	入試委員会、教務委員会、企画運営委員会
関連部署 (事務部門)	アドミッションセンター、IR・広報室、修学支援室
関連データ(規程)	建学の精神、学則、アドミッションポリシー

中期計画2029(MASTER PLAN)	
01-I-1.	本学の入試制度と親和性の高い受験生とその関係者に対する情報発信力を高める。
01-I-2.	高校訪問、オープンキャンパス、模擬授業、学校説明会等の募集活動の再構築を図る。
01-II-1.	年内入試を重視し、一定数以上の志願者・入学者を確保する。
01-II-3.	内部進学者の確保に向けて、系列校との連携を強化する。
01-II-4.	「離職者等再就職訓練事業」による訓練生の受け入れや男子学生等の、多様な入学者を増やす。

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

- (1) 高校生に訴求効果の高いwebコンテンツ(ニュース記事、SNS、youtube動画)の充実を図る。また、そのための組織作りを行う。(入試)
- (2) 「短期大学生調査」結果をもとに、本学の強み・弱みなどの客観的な環境分析を行い、本学の特徴を明らかにする。(企画・IR)
- (3) オープンキャンパス及び保育体験講座への誘導を図るため、ターゲットを絞ったWeb広告やデジタルコンテンツ(SNS)の活用、DMの送付等を行う。(入試)
- (4) 在学生の意見を取り入れ、オープンキャンパスの開催時期に適した、受験生が楽しめるようなプログラムを企画・提供する。(入試)
- (5) 保育志望者を早期に確保するため、「保育者のたまご講座(ほいたま)」を夏休み期間を中心に、対象地域を千葉県内全域に拡大して実施する。(入試)
- (6) キャンパス移転後の立地を踏まえ、高校訪問対象地域を千葉県内の他、東京都東部、茨城県南部及び広域通信制高校へ拡大する。(入試)
- (7) 奨学金制度(「えほんのもりチャレンジ」「学びアピール」)の名称変更等を行い、奨学金制度の周知徹底を図る。特に保育基礎コース設置校や教育提携締結校に対しては、早期に訪問して個別説明を行う。(入試)
- (8) 同窓生推薦制度の出願条件を見直し、志願者・入学者の確保に努める。(入試)
- (9) 一般選抜入試の特待生条件を充実させ、四大志望者が本学を併願する動機づけとなるような入試とする。(入試)
- (10) 敬愛学園高校の「総合的な探究の時間」や系列校全校の「家庭科(保育分野)」への協力により、保育を志望する生徒を増やす。(企画・地域連携センター)
- (11) 系列校で開催される三者面談時に短大専用ブースを設置し、短大の魅力や強みを生徒や保護者に具体的に伝える。(入試)
- (12) 「離職者等再就職訓練事業」の応募者対象説明会を土日祝日に開催し、在学生との情報交換の場も設けるとともに、在学中の訓練生の声を公式ウェブサイトでのPRする等の工夫により、社会人入学者数を増やす。(離職者等再就職訓練事業)
- (13) 男子の入学者数を定員の1割以上とすることを目指す。そのために、男性保育者についてのリーフレットを毎年度更新して、公務員保育士採用試験合格者や公立の保育施設に勤務している卒業生のインタビュー記事等を掲載するなど、タイムリーな情報を提供する。(入試)
- (14) 卒業生の「男性保育者の会」の立ち上げ、男性保育士の魅力を発信する活動を展開する。(就職・広報)
- (15) ダンスやピアノ等の特技を入試の判定に活用する受験前優遇制度を設ける。(入試)

2 具体的計画(PLAN)

- (1) ホームページに掲載した授業等の取材記事をSNS(主にLINE、Instagram)と連動させ教育内容の訴求を図る。取材依頼フォームを活用して授業の目的やカリキュラム上の位置付けを明確にし、的確な取材が行えるよう運用を改善する。(入試)
- (2) 「短期大学生調査」を基に本学と他の幼保系短大との比較に基づく強み・弱みの分析を行う。記述統計に加えて、推測統計(統計学的検定)を用いた分析を行い、有意となった項目を洗い出す。「実質的に意味のある関連」を考慮して連関係数をういた検討も行う。以上を総合した報告を行い、関係者の意見交換によって特徴を明らかにする。(IR・広報)
- (3) オープンキャンパスやイベントの集客を目的として、高校生をターゲットとしたGoogle広告を強化する。広告予算を増額し前半期における配信数の増加を図る。改修したランディングページに誘導し、各種イベントの申込の獲得を目指す。イベントに参加したLINE連携者に個別メッセージの配信を行い関係維持を図る。(入試)
- (4) 学生が主体的にオープンキャンパスの企画・運営を図れるよう、オープンキャンパスコーディネーター(OCC)を設置し、教職員と連携しながら、魅力ある企画内容を立案・実施する。(入試)
- (5) 協力園を昨年度の3園から10園に拡充し、職業選択・学校選択の機会を高校生に提供していくと共に、参加者の6割が本学を受験している実績から、さらなる募集定員充足を掲げていく。(入試)
- (6) 既存維持として北総地区の高校へ継続的にアプローチしていくほか、新規開拓として葛南・東葛飾地区の高校へのアプローチ、私立高校の進路指導部へのアプローチを行っていく。また広域通信制高校の学習センターにもアプローチを図っていく。(入試)
- (7) 保育連携校(四街道北・鎌ヶ谷西・土気・市川南)及びその他の提携校に対し、保育実践の授業協力を提供していくと共に、進路指導部の教員と連携を図り、本学独自の支援制度の単独説明会実施を目指す。(入試)
- (8) 同窓生推薦に設けていた評定平均3.0を撤廃し、受験回数を2回から3回へと増やし、受験者数の拡充をねらう。(入試)
- (9) 成績上位者より選抜し、入学金(25万円)を免除としていた費目及び減免額を、「入学金全額および授業料の全額とする」「入学金全額および授業料の2分の1の額とする」「入学金の全額とする」とその対象枠を拡充する。(入試)
- (10) 敬愛学園高校「総合的な探究の時間」のうち、1年次「Image Image」への教員派遣、3年次「卒業論文作成」への個別指導対応により、保育に関する高校生の関心を高める。また系列2高校の家庭科との間で推進に向けた協議を開始する。(企画・地域連携センター)
- (11) 生徒に向けた3者面談、3年担任への説明会など、進学ガイダンスを進路指導部教員と連携しながら実施していく。(入試)
- (12) 「離職者等再就職訓練事業」の応募者対象学内説明会を土日祝日に開催し、在学生との情報交換の場も設けるとともに、「千葉」「千葉南」会場での学外説明会の開催を必須とする。在学中の訓練生の声を公式ウェブサイトでもPRする等の工夫により、社会人入学者数を増やす。(離職者等再就職訓練事業)
- (13) ①男性保育士向けリーフレット「敬愛で保育者になろう」を夏の時期に刷新する。OC時に卒業生を招いて本学の魅力を発信していくことを今年度より実施していくが、その中で男子卒業生も対象としていく。(入試)
- (13) ②他養成校の試験内容を参考にしながら検討していく。(入試)
- (14) 男子学生の卒業時の就職情報をとりまとめて、IR・広報室へ提供する。(就職)
- (15) ダンスやピアノ等の特技を入試の判定に活用する受験前優遇制度を検討する。(入試)

3 取組状況(DO)

- (1) LINEとInstagramを中心に授業等の取材記事の発信を行った。LINEでは、4月から9月までの半年間で、友達追加が272件(115%; 1774→2046)に増加した。Instagramでは、フォロワーが267件(133%; 817→1084)増加となった。取材依頼フォームを教員に周知することにより、的確な取材が行えるよう運用の改善を図った。(入試)
- (2) 「短大生調査」の結果を集計し、教授会等に報告を行った。連関係数を用いた分析によると、参加体験、キャリア支援、ゼミに関連するプロジェクト、施設設備等の充実等が本学の強みと推測される。他大学や専門学校との差別化要素の1つとして、今後の広報戦略に役立てる。(IR・広報)
- (3) Google検索広告を昨年度の30万円から約160万円に増額し、5月初旬から9月末までの配信によりオープンキャンパスの予約者を81件獲得した。予約申込単価は、約19,600円となり、目標の2万円以内に収めることができた。ランディングページを改善し、5月末に公開した。4月から9月までの半年間、述べ2,258人の高校生に向けて、LINEメッセージの配信を19回行った。Instagram広告の導入し、閲覧数は約725,000回、アクセス数は約23,500回、リンククリック数は約1,000回となった。(入試)
- (4) 学生が主体的にオープンキャンパスの企画・運営を図れるよう、「チームけいたん」を再結成した。主軸となるオープンキャンパスコーディネーター(OCC)が教職員と連携しながら、魅力ある企画を考え実施していくことは概ね順調に行っている。司会・進行のストーリーを考え実践し、学生とのしゃべり場では学校生活を学生目線でわかりやすく伝え、OCC企画では面接対策講座等の様々なイベントを企画して来場者へ提供することができた。(入試)
- (5) 協力園を昨年度の3園から10園に拡充し、職業選択・学校選択の機会を高校生に提供していくことは無事に体制を整えることができた。一方、参加者数は昨年度と同程度となり、今後参加者を増やすことが課題と思われる。(入試)
- (6) 既存維持として、北総地区(成田・佐倉・富里等)方面は、他のエリアより高校訪問のまわる回数を増やし、敬愛短期大学からの有益な情報(県内短大の状況、本学の新しい取り組み等)を伝えることに努めている。広域通信制高校の学習センターからの出願は、今年度も新規校で2名出てきている。新規開拓として葛南・東葛飾地区の高校へのアプローチは後期注力していく予定である。(入試)
- (7) 保育連携校(四街道北・鎌ヶ谷西・土気・市川南)及びその他の提携校に対し、保育実践の授業協力を提供していくことは、例年と同程度開催ができています。また千葉聖心高校や他校から保育系の依頼が若干ではあるが増えてきていることも良い傾向となっている。一方、進路指導部の教員と連携を図り、本学独自の支援制度の独自開催はまだ実現に至っていない。こちらについては、後期ヒアリングを行い慎重に提案を行う。(入試)
- (8) 同窓生推薦に設けていた評定平均3.0を撤廃し、受験回数を2回から3回へと増やした。総合型選抜Ⅰ期終了時点では11名が受験をし、引き続き受験者数の拡充を目指していく。(入試)
- (9) 特待制度として成績上位者の対象枠を「入学金全額および授業料の全額とする」「入学金全額および授業料の2分の1の額とする」「入学金の全額とする」と拡充したが、年明け入試に向けた周知活動を後期より行っていく。(入試)
- (10) 敬愛学園高校の「総合的な探究の時間」には、1年生(Inage Image)と3年生(卒業研究)に教員5名を派遣し、生徒の探究活動を支援した。また系列2高校の生徒には、保育に関心がある生徒向けの参観実習「保育者になるには体験」を千葉市幼保指導課の協力で実施、19名の生徒が参加した。(企画・地域連携センター)
・系列2高校の家庭科との間で推進に向けた協議は、まだ開始されていない。(企画・地域連携センター)
- (11) 生徒に向けた3者面談、3年担任への説明会など、進学ガイダンスを進路指導部教員と連携しながら実施していくことは今年度予定通り開催した。(入試)
- (12) 「離職者等再就職訓練事業」の受託決定後の募集活動(1~2月)において、学内説明会を就労者の参加しやすい土日祝日に開催し、在学生との情報交換の場も設けるとともに、「千葉」「千葉南」会場での学外説明会への参加申請を行う。また、現在、2024年度卒業の訓練生の声を公式ウェブサイトに掲載して学生募集のPRを行っており、2025年度分についても同様に掲載予定である。(離職者等再就職訓練事業)
- (13) ①男性保育士向けリーフレット「敬愛で保育者になろう」を昨年度から実施しているが、今年度最新版の資料は9月末に完成した。10月より順次ターゲット校へ配布を進める。今年度のOCより卒業生企画を3回実施し、うち1回は男子卒業生を招いて本学の魅力を語ってもらった。参加者からは在学生とは異なる立場の声は好評で、次年度も計画的に取り入れていく(入試)
- (13) ②他養成校の試験内容を参考に改善した点について、入学者選抜における評価方法及び学力の3要素を本学は掲載をしていなかったため、入学試験要項(紙・WEB)上に掲載し、受験生が受験をしやすような情報提供を行った。試験内容については、次年度に向けて検討を進めている。(入試)
- (14) 男子学生の卒業時の就職情報をとりまとめて、IR・広報室へ提供予定である。(就職)
- (15) 特技試験は他校で実施しているが、高校側からの評判は芳しくないため、今年度の検討は見送る。(入試)

4 点検・評価(CHECK)

(1)LINEの友達数115%増、Instagramのフォロワー数133%増を達成し、受験生へのリーチ力を劇的に向上させた。取材依頼フォームの活用で運用改善も図られたが、動画制作等の業務負担増への対応や、資格取得・支援に関する具体的な情報発信には課題がある。(入試)

(2)「短期大学生調査」の分析により、「参加型体験」や「キャリア支援」が本学の顕著な強みであることをデータで証明した。しかし、この強みを高校生に的確に伝えるホームページや冊子などの広報媒体への反映は未完了であり、ブランドイメージの確立までには至っていない。(入試)

(3)Google検索広告の予算を増額し、目標単価内での予約獲得に成功した。一方で、広告配信エリアが限定的であったため、千葉県全域をカバーする広域的な認知拡大や潜在層へのアプローチには至らず、集客の飽和傾向という課題を呈した。(入試)

(4)学生スタッフ「OCC(チームけいたん)」を再結成し、学生目線での面接対策講座等を企画・実施した。来場者の満足度は得られたものの、スタッフの量的不足やプレゼンテーションの単調さを解消できず、組織としての質的向上にはなお時間を要する。(入試)

(5)協力園を10園へと大幅に拡充し、県内広域で現場体験を提供できる強固な体制を完遂した。しかし、参加者数は前年度と同程度に留まっており、集客時期の最適化や、入試への意欲を直接的に高める仕組みづくりが急務である。(入試)

(6)広域通信制高校への訪問を通じ、新規校からの出願を確保するなど、移転後の立地を活かした市場開拓に一定の道筋をつけた。だが、保育分野全体の関心低下という市場動向に対し、訴求内容の抜本的な見直しと、さらなる新規エリアの開拓が不可欠である。(入試)

(7)提携校等への保育実践の授業協力は例年通り安定して継続されている。一方、本学独自の奨学金等の支援制度に関する進路指導教員への単独説明会は実現しておらず、教員を通じた受験生への浸透力不足を打破できていない。(入試)

(8)評定平均基準の撤廃や試験回数の増設を断行し、受験生にとって挑戦しやすい制度へと刷新した。志願者増を狙った大胆な改革であったが、周知方法が依然として限定的であるため、制度の柔軟性が志願者数の飛躍的な拡大に直結していない。(入試)

(9)一般選抜における上位枠の優遇措置を多層的に充実させ、4大志望者に対する併願動機を強化した。しかし、入試サイクル後期に対象層へ情報を届けることの難しさに直面しており、年明け入試に向けた効果的な周知が継続課題である。(入試)

(10)・敬愛学園高校の「総合的な探究の時間」には、1年生(Inage Image)と3年生(卒業研究)に教員5名を派遣し、生徒の探究活動を支援した。特に1年生のInage Imageでは、校内審査の結果、第3位の成果を得ることができた。

・系列2高校の生徒には、保育に関心がある生徒向けの参観実習「保育者になるには体験」を千葉市幼保指導課の協力で実施、2高校から19名の生徒が参加した。

・系列2高校の家庭科との間で推進に向けた協議は、3月下旬(高校の春季休業中)に実施を予定している。(企画・地域連携センター)

(11)三者面談時の個別ブース設置や説明会を計画通り遂行し、生徒・保護者に対して短大の魅力を直接発信する機会を確保した。今後は在學生や就職内定者を前面に出すなど、系列校ならではの「出口保障」をより強調する訴求が必要である。(入試)

(12)土日祝日の説明会開催や修了生の声の可視化により、多忙な社会人が学びを検討しやすい環境を整備した。社会人入学者の確保に向けた利便性は向上したが、Webサイトでの体験談発信をさらに継続するなど、多様なキャリア支援を定着させる必要がある。(離職者等再就職訓練事業)

(13)男子向け広報資材の刷新や卒業生対談企画により、募集目標である10名の入学者を確保した。成果は上がっているものの、男子高校生が短大を選択肢に入れやすい環境を盤石にするため、在學生の姿を可視化する取り組みを緩めてはならない。(入試)

(14)卒業生の「男性保育者の会」を立ち上げ、その存在を広報することにより男子入学者増を目指すことを検討したが、既に校友会の存在もあり、「男子学生等の多様な入学者を増やす」ための方策としては非効率的と判断し、本会は立ち上げないこととした。(就職)

(15)特技を入試判定に活用する制度の導入を検討したが、初心者教育を重視する本学の特色を損なう恐れがあるため、実施を見送る決断を下した。教育の質を守る姿勢を明確にしたが、他校との差別化を図るための新たな入試の魅力付けが次なる課題である。(入試)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1)~(3)Web(Google/Insta/TikTok)広報へ集中投下する。年間の全イベントを網羅した小冊子を早期配布し、その場で次の予約を促すシステムを導入する。(入試)
- (4)2年生が1年生を指導できるリーダー体制の構築と、人件費の増額によるOCCの質的向上・人数確保を図る。(入試)
- (5)3月開催を追加し、学びの振り返りとなる「修了証(仮)」を発行して入試への意欲を高める仕組みを構築する。(入試)
- (6)通信制高校や東京都東部・茨城県南部への訪問を強化する。また、専門学校検討層に向けた「短大のメリット」比較コンテンツを制作・発信する(入試)
- (7)~(9)高大連携18校を対象とした「指定校推薦検定料免除(30,000円)」を新設し、志願者を確保する。奨学金名称をより分かりやすいものへ変更検討する。(入試)
- (10)敬愛学園高校「総合的な探究の時間」には、今後も積極的な指導助言を行うと共に、千葉敬愛高校からも依頼があれば協力を進める。「保育者になるには体験」も、千葉市の協力を受けながら充実させる。
系列2高校の家庭科との協議で得られた意見を元に、出前授業等を通じた交流を深め、入学者の確保に繋げる。(企画・地域連携センター)
- (11)三者面談ブース等において、系列校出身の在學生や就職内定者を前面に出し、系列校ならではの安心感を訴求する。(入試)
- (12)Webサイトでの訓練生の体験談発信を継続し、社会人入学者数を維持・拡大する。(離職者等再就職訓練事業)
- (13)リーフレットの定期的更新と「ロールモデル(在學生・卒業生)」の可視化を継続し、男子高校生が短大を選択肢に入れやすい環境を整える。(入試)
- (14)廃止(就職)
- (15)ピアノ等、初心者から育成する本学の教育課程の特色を損なわないよう、特技による入試判定優遇は実施しない。(入試)

以上

基準	基準Ⅱ 教育課程と学生支援
テーマ	D 学生支援

関連委員会	教務委員会、学生委員会、就職委員会、キャリアセンター長、入試委員会
関連部署 (事務部門)	修学支援室、学生支援室、キャリアセンター、アドミッションセンター
関連データ(規程)	建学の精神、学則

中期計画2029(MASTER PLAN)	
<p>01-Ⅱ-2. 修学・学生支援等の取組を強化し、収容定員を充足させる。</p> <p>03-I-1. 公立保育所等への就職支援を強化する。</p> <p>03-I-2. 就職活動のサポートに対する学生満足度を向上させる。</p> <p>03-I-3. 学生に付加価値を付けることを目的に、各種の資格取得を奨励する。</p> <p>03-Ⅱ-1. 国の高等教育の無償化制度の対象学生への円滑な給付を目指すとともに、本学の奨学金制度の充実を図る。</p> <p>03-Ⅱ-2. 学生の心身の健康を守る支援、健康管理、個人情報管理等の多様な取組により、学生生活を安心・安全に過ごせるための支援体制の更なる改善を図る。</p>	

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

- (1) KCNを活用し、クラス担任やゼミ担当者が入学から卒業まで継続した修学・学生支援を行う。(教務・学生)
- (2) 保育者志望から進路変更した学生に対し、卒業できるよう支援する。(教務)
- (3) 1年終了時点で、充足すべき免許・資格取得要件を設ける。(教務)
- (4) 毎月の教授会終了後に、学生に関する情報共有を行う。(教務・学生)
- (5) 「短期大学生調査」「卒業生調査」「FD委員会による学生への聞き取り調査」等の結果を修学支援に活用する。(学生・就職・教務(FD))
- (6) 各自治体職員による公務員保育士についての講話の機会を設ける。(就職)
- (7) 大学と連携した公務員試験対策講座(SPI等)の共同受講を実施する。(就職)
- (8) 教職員間で学生の情報共有を密にする等、学生が就職相談しやすい環境作りを行う。(就職)
- (9) 本学独自の就職説明会(幼稚園、保育園、認定こども園、施設)を開催する。(就職)
- (10) 職種別職場見学ツアーを実施する。(就職)
- (11) 認定絵本土、認定ベビーシッター、ピアヘルパー(准子育て支援教育カウンセラー)、准学校心理士、おもちゃインストラクター、幼保英検の取得を奨励する。(教務)
- (12) オープンキャンパス等で保育士修学資金貸付制度の案内をするとともに、そのメリットとデメリットを正確に伝える。また、入学後も保育士修学資金貸付制度の周知を徹底する。(入試・学生)
- (13) 生命保険協会の「保育士養成給付型奨学金生制度」の対象校として選定されることを目指す。(学生)
- (14) 修学支援新制度(特に多子世帯条件)の周知徹底を図り、経済的に修学困難な学生の利用促進を図り、支援を充実させるとともに、学業への専念が重要であることを理解させる。(学生)
- (15) 学生相談室や保健室と連携しての年度始めの情報共有等により、要配慮学生への支援体制を強化する。(学生)

2 具体的計画(PLAN)

(1) クラス担任、敬愛スタートアップゼミ担任(1年次)、敬愛ブラッシュアップゼミ担任(2年次)が出席状況を随時確認して、欠席が目立つ学生への指導を行う。また面談を実施した際には学生プロフィールに記録して、教職員で情報を共有し学生支援を行う。(教務・学生)

(2) 進路変更を決めた学生に対して速やかに面談を実施し、進路の希望を踏まえて履修指導を行い、確実に卒業できるよう対応する。(教務)

(3) 各実習指導Ⅰが不合格、欠席超過により再履修となる場合は原則として、2年での取得を不可とする。(教務)

(4) ①自己点検・評価委員会を開催しない月の教授会終了後に、教務委員会主催で全専任教員による情報共有の会を設ける。(教務)

(4) ②①ガイダンス・KCN・ホームページ等で学生相談室の周知を図る。②心の健康に関する調査を行い、メンタル不調の早期発見や予防的なアプローチを図る。(学生)

(5) ①「短期大学生調査」を実施し、その結果をもとに学生支援活動の改善を図る。(学生)

(5) ②前年度の卒業生調査の結果を活用し、就職支援講座の中で、必要とされる保育者の資質、能力を教授していく。(就職)

(5) ③教授会等の機会ですぐ調査結果を報告し、各教員への修学支援への活用を促す。また3月の講師説明会の際にも報告し、非常勤講師への活用を求める。(教務(FD))

(6) キャリアデザイン科目と連携し、各自治体職員による公務員保育士についての講話の機会を設ける。(就職)

(7) 大学と連携した公務員試験対策講座(SPI等)の共同受講を実施する。(就職)

(8) キャリアセンターの個人面談やゼミ面談の記録をKCNをとおして共有し、発展的なサポートにつなげる。(就職)

(9) 本学の連携状況を踏まえて、8月に学内就職説明会(幼稚園、保育園、認定こども園、施設、自治体)を開催する。(就職)

(10) 複数の保育系施設をもつ法人や企業と連携し、職種別職場見学ツアーを企画する。(就職)

(11) 各資格に関連する授業内で資格の意義やメリットを周知し、取得を奨励する。(教務)

(12) ①高校生や保護者に関心の高い「保育士修学資金貸付制度」について、入試ガイダンスやオープンキャンパスにおける説明が徹底するよう、学内での周知を図る。(学生)

(12) ②入学試験要項に記載している「学外の奨学金・教育ローン」の内容を刷新し、「貸与奨学金」「給付奨学金(高等教育の修学支援新制度)」「保育士修学資金貸付制度」「教育ローン利子補給のお知らせ」「修学支援新制度ご利用予定の方へ」と項目ごとに紹介していくとともに、相談を求める生徒には個別の対応を行っていく。(入試)

(13) 生命保険協会の「保育士養成給付型奨学金制度」の対象校となり、学内基準を設定し選出の公平化を図る。(学生)

(14) 担当部署での指導に加え、情報をゼミ担当者で共有し、生活習慣の乱れを未然に防ぐ。(学生)

(15) ①学生および教職員に対し、本学における障がい学生支援体制の周知を強化する。②個人情報の保護に留意し、教職員間の情報共有を図る。(学生)

3 取組状況(DO)

- (1) 教務では、クラス担任やゼミ担当者が随時出席状況を確認し、回数が多い学生への支援を行っている。プロフィールへの修学・学生支援の記録の入力については、全ての担当者が入力できていない。引き続き入力を求めていく。学生委員会では、生活習慣の乱れや、クラス内での人間関係等から困り感を感じている学生の情報共有や、成績不信(特に給付を受けている)学生に対し、ゼミ担当と共に指導をしている。(教務・学生)
- (2) 該当の学生に対し、保護者同席で面談を行い、卒業に向けた履修指導を行っている。(教務)
- (3) 具体的計画の通りに実施している。(教務)
- (4) ①自己点検評価委員会のない月の教授会終了後に、学生に関する情報共有を行っている。(教務)
- (4) ②①ガイダンス等での学生相談室利用に関する周知を徹底している。また、定期的に「学生相談室だより」を配信し、学生生活に役立つ情報を提供している。②「こころの健康調査」を実施し、学生へのアプローチを図っている。(学生)
- (5) ①「短期大学生調査」を所定時期に実施し、学生生活(リーダー育成、行事運営など)、学生支援をはじめ、大学全体で結果共有をし改善をはかれるようにした。(学生)
- (5) ②前年度の卒業生調査から、社会人としての自律やコミュニケーションの方法に焦点を当て、1年生向け講座を6月5日、19日に、2年生向け講座を5月8日、29日に外部講師を招き講座を実施した。(就職)
- (5) ③教授会等の機会ですぐ報告し、支援を促している。(教務(FD))
- (6) 4月25日にキャリアデザイン授業内で千葉市公務員保育士採用試験の説明会を実施した。(就職)
- (7) 大学主催のSPI講座(8月5日-7日)に、1年生8名が受講した。(就職)
- (8) 4月当初から5月中旬にかけて、2年生を対象にキャリアセンター職員との個人面談を実施した。面談内容はKCNに記録を残し、短大教員と情報共有をおこなっている。(就職)
- (9) 8月7日にキャリアセンター主催で、学内就職説明会を実施した。30法人を招聘し、90名(1年生22名、2年生68名)の学生の参加があった。(就職)
- (10) 外部で実施の保育施設見学ツアーの形態、実施方式などの情報収集をおこなっている。(就職)
- (11) 該当科目において周知し、資格試験の受験を促している。最終報告では各試験の受験者数、合格者数を記入する。(教務)
- (12) ①本制度内容の情報を学内で共有し、オープンキャンパスにて関係資料を提供している。また、入学前事前説明会の実施および入学後のKCNによる周知により、本制度内容の理解を深めさせた。(学生)
- (12) ②オープンキャンパス時に配布する資料及びしゃべり場で説明を図り、個別に保護者からの質問に対応をしている。(入試)
- (13) 本制度の対象校として選定され、学生1名が奨学金を受けた。(学生)
- (14) 説明会において、本制度への理解と周知徹底を図り、利用促進の支援を充実させた。(対象者81名) また、成績維持に努めるようゼミ担任から注意を促せるようにした。(学生)
- (15) ①ガイダンス、ホームページ、教授会等で障がい学生支援体制の周知を徹底した。②配慮申請に関する学内関係者への情報共有の必要性やその共有範囲について、申請者に対し丁寧な対応ができる体制づくりをしたが、申請者はなかった。(学生)

4 点検・評価(CHECK)

(1)教務委員会では、クラス担任やゼミ担当者が随時出席状況を確認し、欠席回数が多い学生への支援を行うことができた。KCNへの修学・学生支援の記録の入力について呼びかけたが、全ての担当者が入力するまでに至らなかった。当該学生の躓きに気づき、様々な活動での状況を教員全体で共有し、指導方針を検討した。状況を踏まえての指導の工夫や日常的なフォロー体制を築いていく(教務・学生)

(2)進路変更を決めた学生に対して速やかに面談を実施し、進路の希望を踏まえて履修指導を行い、卒業できるよう対応できた。(教務)

(3)保育者志望から進路変更した学生に対し、卒業できるよう支援できた。(教務)

(4)①自己点検評価委員会のない月の教授会終了後に、学生に関する情報共有を実施することを目指したが、該当の月で全て実施できなかった。(教務)

(4)②ガイダンスや「学生相談室だより」の配信により、学生相談室利用案内の強化を図ることができた。また、「こころの健康調査」をもとに相談支援の充実を図ることができたが、調査回答率の低さに課題を残した。(学生)

(5)①③「短期大学生調査」は、ゼミ単位にて回答を依頼したが、100%にはいたらなかった。リーダー研修会、チューター研修、各行事企画委員会において学生が主体的に課題に取り組み実行していくためのスキルを高めたことが「短大学生調査」の結果からわかった。(問題解決、主体的な行動、地域社会に貢献する力、コミュニケーション能力、協働する力、リーダーシップ、粘り強さ、挑戦する力)は全体平均に比べ高い。しかし、計画性については平均を下回った。(学生)。「FD委員会による学生への聞き取り調査」等の結果を、毎年実施している非常勤講師会にて報告し、その結果をもとに自身の授業改善を促した(教務)

(5)②1年生向け講座を6月5日(82名)、19日(36名)、10月3日(29名)、12月12日(11名)に、2年生向け講座を5月8日(26名)、29日(42名)、9月26日(26名)、12月19日(8名)、1月23日(16名)に実施したが、授業外だったため参加人数が少なかった。(就職)

(6)キャリアデザインなどの授業内で実施した際は学生参加率が高いが、授業外や他日程によっては参加人数が少ないこともあった。(就職)

(7)大学主催のSPI講座への参加は初めての試みであった。実習等と重複し一部の公務員希望学生の参加となった。(就職)

(8)キャリアセンターで2年生全員と面談をすることが初めてだったが、5月の段階で学生の進路希望が把握出来るため、その後の指導に生きた。(就職)

(9)学内就職説明会への参加学生が90名(1年生22名、2年生68名)と想定より少なかった。(就職)

(10)保育施設見学ツアーについて、学生の希望が多様化していることや実習や学事日程で実施が困難である。(就職)

(11)各認定資格では準学校心理士8名、ピアヘルパー14名、おもちゃインストラクター養成講座受講62名、認定ベビーシッター登録104名、認定絵本土107名。以上が資格取得ができた。また、新たな資格として「こども音楽療育士」について、2026年度入学生より適用できるよう、2025年度にカリキュラム変更を行った。(教務)

(12)①入学事前説明会やKCNで周知と理解を高めた。説明の理解度の差により、呼び出しや窓口対応が多かった(学生)

(12)②入試要項の刷新とオープンキャンパスでの個別相談により、経済的支援の可視化と受験生の不安解消に一定の成果を得た。しかし、入学後の学生に対する制度の周知徹底や、個々の修学状況に応じた継続的なフォロー体制の構築は依然として課題である。(入試)

(13)より多くの優秀者が選ばれるよう、奨学金の重複を避けるための基準を明確にした。(学生)

(14)受給者は84名となった。引き続き対象者に情報の周知徹底を図っていく。また人数が増えたため、成績の維持が難しくなっている。引き続きゼミ担任からの指導を継続する。(学生)

(15)①学生および教職員への障がい学生支援体制の周知徹底を図ることができた。②次年度に配慮支援を希望する学生が1名申請してきており、当該学生との個別面談を実施し、修学等への支援の充実を図る準備を進めると同時に、配慮に関する情報の取扱いについて、申請学生と丁寧な話し合いを行い、個人情報管理を徹底している。(学生)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1) 学生委員会と教務委員会と連携して早期の発見と対応を心掛けていく。今年度に引き続き、クラス担任やゼミ担当者が随時出席状況を確認し、回数が多い学生への支援を行い、プロフィールへの修学・学生支援の記録の入力について呼びかけ、全ての担当者が入力するように呼びかける。(教務・学生)
- (2) 来年度も引き続き、進路変更を決めた学生に対して速やかに面談を実施し、進路の希望を踏まえて履修指導を行い、卒業できるよう対応する。(教務)
- (3) 来年度も引き続き、保育者志望から進路変更した学生に対し、卒業できるよう支援する。(教務)
- (4) ①来年度は自己点検評価委員会のない月の教授会終了後に、学生に関する情報共有を確実に実施できるように実施計画を立案する。(教務)
- (4) ②「心の健康調査」の回答率を上げ、学生の被援助性を高めていく。(学生)
- (5) ①③ゼミごとの周知となるため、時間や周知内容に誤差が生じ、ゼミ内で確実に時間を確保し実施してもらう。学生の計画を立てる力は、リーダ研修会の講話を再検討し、こまめな打ち合わせをするなど意識的に行っていく。(学生)「FD委員会による学生への聞き取り調査」等の結果を、来年度の非常勤講師会にて報告し、その結果をもとに自身の授業改善を促していく。(教務)
- (5) ②多数の学生が参加できるような日程、内容を検討していく。(就職)
- (6) 公務員保育士採用試験説明会について、千葉県以外の自治体でも実施を検討し、実施日程については、多くの学生が参加できるよう検討する。(就職)
- (7) SPI試験講座については、大学と日程調整をして、実習等に重複しないようにする。(就職)
- (8) 学生との個人面談については、面談内容等KCNへの入力を徹底し、教職員間で情報共有を行う。(就職)
- (9) 学内就職説明会について、参加人数が増えるように日程の検討及びアナウンスを徹底する。(就職)
- (10) 保育施設見学ツアーは廃止とする。(就職)
- (11) 来年度も各資格に関連する授業内で資格の意義やメリットを周知し、取得を奨励する。(教務)
- (12) ①学生および保証人がしっかりと理解できる資料を作成する。(学生)
- (12) ②修学支援新制度の変更反映やSNSによる平易な情報発信、名称改善により、経済的支援の周知と利用促進を図る。あわせて、面談強化による中退防止と、高校の進路指導教員への個別説明を通じた志願者確保を強力に推進する。(入試)
- (13) 生命保険協会の奨学金は、2025年度に収束となった。(学生)
- (14) 利用者は増えているが、成績の維持が条件となるため、成績不振者は引き続きゼミ担任の面談で改善をしていく。(学生)
- (15) ①引き続き、ガイダンスや、ホームページ等で周知をはかり、困り感のある学生には情報を伝えるようにする。②配慮学生支援についての教員アンケートを実施することを浸透させる。(学生)

以上

基準	基準Ⅲ 教育資源と財的資源
テーマ	A 人的資源

関連委員会	企画運営委員会、FD・SD委員会
関連部署 (事務部門)	大学運営室、修学支援室
関連データ(規程)	建学の精神、学則

中期計画2029(MASTER PLAN)
04-I-1. 研究活動支援体制を整備し、競争的資金に関する情報収集や教員への情報提供を図り、外部資金の獲得実績を向上させる。

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

(1) 職員の研究支援に関する外部研修やセミナー等への参加を促進し、競争的資金の支援業務や共同研究サポートに対応できる人材を育成する。(大学運営室・FD)

2 具体的計画(PLAN)

(1) ①大学運営室職員の外部研修及びセミナー等積極的な参加を行い、研究支援業務の更なる向上を目指す。(大学運営室・FD)

(1) ②大学運営室職員が、申請書の作成支援や添削サポートを積極的に行う。(大学運営室・FD)

3 取組状況(DO)

(1) ①大学運営室職員に外部研修及びセミナー等積極的な参加を呼び掛けている。科研費獲得ウェビナーでは、大学運営室職員3名が参加し、研究支援業務の更なる向上を目指している。(大学運営室・FD)

(1) ②大学運営室職員が、申請書の作成支援や添削サポートを積極的に行っている。(大学運営室・FD)

4 点検・評価(CHECK)

(1) ①大学運営室職員に対し外部研修やセミナーへの参加を促し、科研費獲得ウェビナーには3名が参加した。研究支援に関する基礎的知識の習得機会は確保されており、研究支援体制の強化に向けた取組は概ね実施されている。(大学運営室・FD)

(1) ②申請書作成支援および添削サポートを実施し、教員の研究活動を事務面から支援している。支援体制は機能しているが、支援内容の標準化や継続的な専門性向上が今後の課題である。(大学運営室・FD)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

(1) ①研究支援に関する研修参加を継続し、得られた知識や情報を室内で共有することで、支援業務の質の向上を図る。(大学運営室・FD)

(1) ②申請支援の内容を整理し、支援の流れや留意点を明確化することで、教員が円滑に申請できる体制を整備する。(大学運営室・FD)

基準	基準Ⅲ 教育資源と財的資源
テーマ	B 物的資源

関連委員会	企画運営委員会、メディアセンター運営委員会
関連部署 (事務部門)	大学運営室、地域連携センター、メディアセンター
関連データ(規程)	建学の精神、学則

中期計画2029(MASTER PLAN)	
05-Ⅱ-1. 大学、短大、高校が同一キャンパス内に存在する強みを生かし、地域との交流拠点を想定した組織の機能強化を図る。	

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

(1) 敬愛学園高校の授業「総合的な探究の時間」(1年次)において、絵本等保育に関する事項に興味関心を持った生徒に対し、地域の保育施設での遊び体験等の支援を行う。(地域連携センター・大学運営室・企画)

2 具体的計画(PLAN)

(1) 敬愛学園高校「Inage Image」での助言指導を行うとともに、千葉市と連携した系列校生徒向け体験事業、「保育者になるには!体験」を2025年7月に轟町保育所で実施する。また2026年2月の「保育者のたまご講座」への系列高校生の参加を促進する。(地域連携センター・企画)

(2) 地域交流および教育支援の拠点として、改修工事による多目的ルームの新設を行う。これにより、敬愛学園高校の生徒と地域の保育施設、大学・短大の学生が連携しやすい環境を整備する。また、保育実習室においては、実践的な学びを支援するため、保育活動で使用するおもちゃや教具の購入を計画している。これらの施設・設備の充実により、保育に関心を持つ高校生の探究活動の支援および、大学・短大における教育資源の強化を図る。(大学運営室)

3 取組状況(DO)

(1) 10月から2月にかけて行われる「Inage Image」では、本学が提示した課題(ミッション)に2グループの生徒が参加することになり、課題解決の助言を行っていく。「保育者になるには!体験」は2025年7月に実施したが、参加希望者が定員を超えたため、轟町保育所に加え千草台保育所でも受け入れていただき、19名の生徒が参加した。引き続き、2026年2月の「保育者のたまご講座」への系列高校生の参加も呼びかけていく。(地域連携センター・企画)

(2) 9月下旬に多目的ルームの新設工事が完了した。これにより、敬愛学園高校の生徒と地域の保育施設、大学・短大の学生が連携しやすい環境整備が進んだ。しかしながら、保育実習室に保育活動で使用するため、おもちゃや教具の購入を計画していたが、予算の関係から断念せざるを得ないこととなり、計画を次年度以降に繰り越す。(大学運営室)

4 点検・評価(CHECK)

(1) 敬愛学園高校「Inage Image」では、本学が提示した課題(ミッション)に2グループの生徒が参加し、いずれのグループもオリジナルの絵本を完成させた。このうち1グループは、校内審査の結果、第3位を受賞した。「保育者になるには!体験」も系列2校から生徒19名が参加し、高校や参加者、実習先保育所から好評を得た。(地域連携センター・企画)

(2) 9月下旬に多目的ルームの新設工事が完了し、高校生・地域保育施設・大学・短大の学生が連携しやすい環境整備が進んだ。地域交流および教育支援の拠点としての基盤整備は着実に進展している。一方、保育実習室における教具・おもちゃの購入については当初計画どおりには実施できなかったが、総合子ども学研究所の予算を活用し、3月までに整備を行う予定である。(大学運営室)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

(1) 高校側の要望を適切に把握しながら、敬愛学園高校「Inage Image」、系列2高校「保育者になるには!体験」の一層の充実を図る。(地域連携センター・企画)

(2) 多目的ルームの活用状況を検証し、高校・地域・短大が連携した取組がより効果的に行われるよう運用面の工夫を行う。また、保育実習室の教具・教材については、整備後の活用状況を確認し、教育効果の向上に資する追加整備の必要性を検討する。(大学運営室)

基準	基準Ⅲ 教育資源と財的資源
テーマ	C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

関連委員会	総合子ども学研究所長
関連部署 (事務部門)	大学運営室、IR・広報室、
関連データ(規程)	建学の精神、学則

中期計画2029(MASTER PLAN)
04-Ⅱ-1. 研究情報をステークホルダーに発信する。

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

- (1) 2025年度の総合子ども学研究所の研究テーマを「子育て支援について」とし、このテーマに基づき、プロジェクト研究参加者を募り、子育て支援事業の実施とともに研究を行う。(研究所)
- (2) 子育て支援事業への参加者に対する研究協力についての規約を作成する。(研究所)
- (3) 総合子ども学研究所が発行しているニュースレターを利活用し、教員の研究概要等をステークホルダーに発信する。(研究所)
- (4) 敬愛フェスティバルにおいて、教員の研究成果についてのポスター発表を行う。(研究所)
- (5) 研究情報の広報のため、報道関係者へのプレスリリースの配信、ホームページでの研究成果の発信を行う。(研究所・広報)

2 具体的計画(PLAN)

- (1) 2025年度は「子育て支援について」のテーマのもと、プロジェクト研究参加者を募り、子育て支援事業で扱う玩具についての研究を行う。(研究所)
- (2) 子育て支援事業への参加者に対する研究協力についての規約の内容を策定する。(研究所)
- (3) 総合子ども学研究所が発行しているニュースレターに教員紹介を掲載するとともに、研究所のHPに掲載されている年報をQRコードから読み取れるようにして、各教員の研究状況をステークホルダーに発信する。(研究所)
- (4) 敬愛フェスティバルにおいて、教員の研究成果についてのポスター発表や成果物の展示を行うとともに卒業生が保育現場での課題などを気軽に話し合える場とする(研究所)
- (5) 各教員の研究成果を広報するため、IRと連携して情報発信を行う。(研究所・広報)

3 取組状況(DO)

- (1) 2025年度は「子育て支援について」のテーマのもと、プロジェクト研究参加者を募り、ゼミ生と一緒にを行う子育て支援事業についての研究を行う。(研究所)
- (2) 子育て支援事業への参加者に対する研究協力についての規約の内容を策定中。(研究所)
- (3) 5月に総合子ども学研究所がニュースレターを発行し教員紹介を掲載するとともに、研究所のHPに掲載されている年報をQRコードから読み取れるようにして、各教員の研究状況をステークホルダーに発信した。(研究所)
- (4) 10月の敬愛フェスティバルにおいて、教員の研究成果についてのポスター発表や成果物の展示を行うとともに卒業生が保育現場での課題などを気軽に話し合える場とする計画を立て準備を進めている(研究所)
- (5) 各教員の研究成果を広報するため、IRと連携して情報発信を行えるよう研究成果の発表を敬愛フェスティバルで行うべく準備を進めている。(研究所・広報)

4 点検・評価(CHECK)

- (1)「子育て支援について」のテーマのもと、ゼミ生と一緒にを行う子育て支援事業についての研究を行い、論文を総合子ども学研究所年報に投稿した。(研究所)
- (2)子育て支援事業への参加者に対する研究協力についての規約については整理できなかった。(研究所)
- (3)5月に総合子ども学研究所がニュースレターを発行し教員紹介を掲載するとともに、研究所のHPに掲載されている年報をQRコードから読み取れるようにして、各教員の研究状況をステークホルダーに発信した。(研究所)
- (4)10月の敬愛フェスティバルにおいて、教員の研究成果についてのポスター発表や成果物の展示を行うとともに卒業生が保育現場での課題などを気軽に話し合える場を提供した(研究所)
- (5)各教員の研究成果を広報するため、研究成果の発表を敬愛フェスティバルで行った。IRと連携しての情報発信には至らなかった(研究所・広報)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

- (1)引き続き「子育て支援について」のテーマのもと、ゼミ生と一緒にを行う子育て支援事業についての研究を行う。(研究所)
- (2)子育て支援事業への参加者に対する研究協力についての規約について策定する。(研究所)
- (3)引き続き5月発行を目指し、総合子ども学研究所がニュースレターに教員紹介を掲載するとともに、研究所のHPに掲載されている年報をQRコードから読み取れるようにして、各教員の研究状況をステークホルダーに発信する。(研究所)
- (4)昨年度は1日のみ行ったが次年度は土日2日間の開催を目指して10月の敬愛フェスティバルにおいて、教員の研究成果についてのポスター発表や成果物の展示を行うとともに卒業生が保育現場での課題などを気軽に話し合える場を提供する(研究所)
- (5)各教員の研究成果を広報するため、研究成果の発表を敬愛フェスティバルで行う。IRと連携しての情報発信ができるようにする(研究所・広報)

以上

基準	基準Ⅲ 教育資源と財的資源
テーマ	D 財的資源

関連委員会	企画運営委員会
関連部署 (事務部門)	大学運営室
関連データ(規程)	建学の精神、学則

中期計画2029(MASTER PLAN)
04-I-1. 研究活動支援体制を整備し、競争的資金に関する情報収集や教員への情報提供を図り、外部資金の獲得実績を向上させる。

1 令和7年度 活動方針・目標(ACTION POLICY)

(1) 競争的資金や助成金に関する最新情報を取得及び集約できる情報収集体制を整備し、資金提供機関や関連団体とのネットワークを構築し、情報交換を促進する。(大学運営室)

2 具体的計画(PLAN)

(1) ① 科研費を含む競争的資金獲得支援として、申請書作成説明会等の研修会案内を充実し、申請内容の添削支援体制を整備する。(大学運営室)

(1) ② 研究費公募の案内を集約し、教員へ情報提供を積極的に行う。(大学運営室)

3 取組状況(DO)

(1) ① 科研費を含む競争的資金獲得支援として、申請書作成説明会等の研修会案内を充実し、申請内容の添削支援体制を整備している。(大学運営室)

(1) ② 研究費公募の案内を集約し、教員へ情報提供を積極的に行っている。(大学運営室)

4 点検・評価(CHECK)

(1) ① 科研費を含む競争的資金に関する説明会や研修会の案内を行い、申請書作成支援および添削体制を整備した。2025年度の科研費については、専任教員1名が研究分担者として採択課題に参画している。また、新規申請者として専任教員2名が申請を行い、現在結果待ちの状況である。外部資金獲得に向けた取組は着実に進みつつある。(大学運営室)

(1) ② 研究費公募情報を集約し、教員へ適時に情報提供を行う仕組みを整備した。競争的資金に関する情報収集・共有体制は定着しており、研究活動支援の基盤は確保されている。(大学運営室)

5 次年度に向けた課題(ACTION)

(1) ① 科研費等の外部資金獲得および研究水準の向上を図るため、申請経験の共有や事前相談の充実を通じて、教員の申請意欲を高めるとともに、新規申請者の拡大および申請件数の増加につなげていく。(大学運営室)

(1) ② 競争的資金に関する情報を体系的に整理し、教員の研究テーマに即した公募情報の提供を強化することで、外部資金獲得の機会拡大を図る。(大学運営室)